



川口けいすけのグリーンス川越

編集/発行 川越市議会議員 川口 啓介
〒 350-8601 川越市元町1-3-1 川越市役所6F 政晴会議員控え室
TEL 070-6998-3687 FAX 049-227-3810 E-mail kawaguchi-keisuke@outlook.com

69

SINCE 2003

69号の紙面からコスト削減ため紙質を変えることに致しました。これまでとは少し雰囲気が変わりますが、ご理解をいただけますようお願い致します。



アクティブシニア応援施策について 6月議会川口の一般質問より

川越市が行う高齢者が生きがいを持って生活するための施策と施設の現状

市として高齢者が生きがいを持って生活するためにどんな施策と施設を用意しているのかを最初に確認しました。施策としては、老人クラブ連合会に委託している芸能大会・スポーツ大会への支援、シルバー人材センターへの支援、社会福祉協議会ボランティアセンター活動事業への支援、公民館の高齢者学級等が、施設としては、総合福祉センター、東西の後楽会館、老人憩いの家があると答えました。

皆さんにとって魅力のある施策・施設となっているのでしょうか？

アクティブシニアとは、主に活動的なシニア層を指す言葉で、セカンドライフを明るくアクティブに送りたいと考える方が、アクティブシニアとされています。生涯現役、元気、仕事、趣味に意欲的、消費意欲が高いなど、これまでの「支援を受ける側」といった高齢者のイメージと異なるシニア像で、社会的にも経済的にも注目されています。

川越市で子供が社会人になり親の手を離れる頃である55歳から後期高齢者となる75歳までの人口を見ると、全人口の約26%を占めています。今後の活力ある超高齢社会の実現に当たっては、多くの知識や知恵、ノウハウを持つ「アクティブシニア」世代の方がその経験を活かし、できるだけ長く社会で活躍できることが今後のまちづくりのカギになると考え、今回の一般質問としました。



そこで重要なのが「健康と活躍の場」

健康面では川越市でも「ときも健康プロジェクト」の中で、健康寿命の延伸に向けた取り組みが行われていますが、科学的根拠に基づいた個別指導と継続支援を可能にするような取り組みではありません。

下の表はICT(情報通信技術)を活用した個別運動プログラムを実践している新潟県見附市の例です。

ICT活用による個別運動プログラムの成果 (新潟県見附市)



